

農林水産省 令和2年度
海外農業・貿易投資環境調査分析委託事業
(東南アジア諸国におけるグローバル・フードバリュー
チェーン構築推進プランの促進)

令和3年3月
株式会社 JTB

目次

1、	東南アジア諸国との二国間政策対話及び官民ミッション	1
(1)	第 5 回日越農業協力対話（ハイレベル会合・官民フォーラム）	1
(2)	日ミャンマー二国間政策対話	7
(3)	日本企業の海外展開状況調査	7
2、	ベトナムにおける農産物・食品の規格・認証制度の活用促進	8
(1)	ASIAGAP と VietGAP の差分の研修	8
(2)	有機 JAS 認証研修	11
(3)	日越合同 GAP セミナー	14
(4)	日越合同食品安全マネジメント（FSM）セミナー	15
(5)	日越合同有機 JAS 認証セミナー	16
(6)	分科会	17
(7)	ワーキンググループ	18

1、 東南アジア諸国との二国間政策対話及び官民ミッション

(1) 第5回日越農業協力対話（ハイレベル会合・官民フォーラム）

【実施日時・場所】

日時：令和2年12月12日（土）15:00～16:30（ハイレベル会合）、17:00～19:00（官民フォーラム）

場所：日本：ホテルグランドパレス ベトナム：ホテルデュパルク（テレビ会議形式）

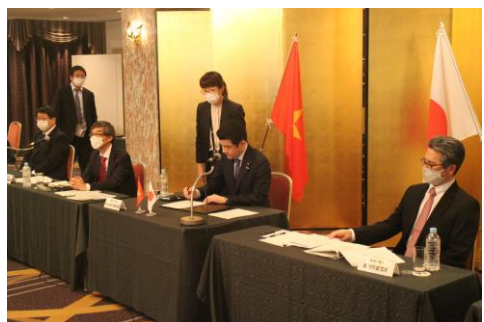
言語：日本語・越語（逐次通訳）

【概要】

農業協力対話では、野上農林水産大臣とクオン大臣により「次期日越農業協力中長期ビジョン」への署名を行うとともに、両国担当局長／長官間で、「かんがい排水分野の技術交流に関する覚書」及び「水産分野に関する協力覚書」に署名した。

【記録写真】 撮影 JTB

日本会場



ベトナム会場



【日越官民フォーラム】

【概要】

日越民間企業約40名参加のもと、日越民間企業の取組の発表及び両国官民での意見交換等が行われた。

(1) 議事次第

時間	議事次第
17:00-17:15	開会挨拶 ・クオン農業農村開発大臣 ・野上農林水産大臣
17:15-17:25	第5回日越農業協力対話の概要
17:25-18:40	日越民間企業の取組 日本側企業 ・市岡製菓株式会社/徳島港湾荷役株式会社 ・日産スチール工業株式会社 ・国土防災技術株式会社 ・協和建設協業株式会社 越側企業 ・Dong Giao Foodstuff Export Joint Stock Company (ニンビン省) ・Hung Nhon Group (ビンフック省) ・Simexco Daklak Ltd. (ダクラク省)
18:40-18:55	質疑応答
18:55-19:00	閉会

(2) 議事概要

1. 開会

ベトナム側あいさつ(クオン農業農村開発大臣)

- 先ほど野上農林水産大臣との間で「第5回日越農業協力対話オンラインハイレベル会合」が終了した。本会合では、中長期ビジョンに合意した。
- 日本の経済規模は5万億ドルで、工業・農業及び生産とサービスに高度技術を持つ国である。市場も大きく、人口1億2,700万人で平均収入は44万5,000ドル以上規模である。経済構造から農産物を輸入しているが、一方で最先端な高度技術を持つ。
- ベトナムも同様に人口1億人以上で、農業開発を進め、2019年は全国民に十分な食料を生産し、その上で輸出額は400億米ドルである。コロナ禍の影響を受けた今年も440億ドルに達する見込みである。
- ベトナムの農業生産は、小規模で付加価値が低い。日本の高度技術でベトナム農業の将来性を生かすことによって、両国の農業が一層発展できると考え、野上農林水産大臣との間で、両国の農業開発に関する覚書と中長期ビジョンを締結した。
- 中長期ビジョンには4つの柱がある。1つ目は、両国の農産物貿易の促進である。ベトナムの日本市場への農産物輸出分野の成果は、この5年間で輸出額の成長率が年約10～21%となり、2019年には輸出額35億米ドルに達した。ベトナム輸出総額400億米ドルに比べると拡大の余地があると考えて

いる。日本人には、ベトナムの農産物や木材製品、コーヒー、ハウレンソウ、パイナップルなどの果実や野菜に人気がある。ベトナムでは、日本の技術や農薬品などの需要があるが、ベトナム市場に日本から輸入している日本の農業関連商品は、5億5,000万ドル。今後、双方の貿易を促進していきたいと考えている。

- ・ 2つ目は、農業生産の全プロセスに必要な技術協力である。
- ・ 3つ目は、日本からのFDIは600億ドル、認可案件は4,000件であるが、その中で農業投資案件は40件で、4億米ドルに留まっている。加えて、協力が必要な分野は人材教育で、各生産組織、中小企業から大企業まで、日本からの高度人材が求められている。
- ・ 4つ目は、ベトナムに大きな影響がある気候変動への対応技術である。
- ・ 両国の発展のために、出席の皆様の、一層の協力をいただきたいと考えている。
- ・ 両政府は戦略的なパートナーシップを築いているが、実現するのは民間企業であるとする。先の会合で提案したとおり、今後、当省も、日本企業とベトナム企業の交流促進のためのフォーラム開催と意見交換の活動を行っていく。
- ・ ベトナム農家を支援し、ベトナム農業の発展のために尽力いただきたい。ベトナムの人口1億人の市場を日本企業に開くとともに、世界70億人の市場に向け、国際社会参入をミッションにしている。改めて、野上大臣をはじめ皆様のご健勝をお祈り申し上げ、ベトナムと日本の友好関係のますますの発展を祈っている。

日本側あいさつ（野上農林水産大臣）

- ・ クオン大臣をはじめ、ベトナム政府、企業の皆様、また日本側出席者の皆様、お集まりいただき感謝申し上げます。官民フォーラムの開催をうれしく思う。
- ・ 菅総理が就任後初の外国訪問先としてベトナムを訪問するなど、日越関係は非常に良好である。官民フォーラムに先立ち開催した「第5回日越農業協力対話ハイレベル会合」では、農林水産分野で両国の連携のさらに深めていくことを確認した。
- ・ 本対話の大きな成果が、日越農業協力中長期ビジョンである。すでに多くの日本企業がベトナムに進出し、ベトナムの農林水産業、食品産業の包括的発展に寄与した。
- ・ ハイレベル会合では、クオン大臣と新ビジョンに署名した。新型コロナウイルス感染拡大が大きな影響を及ぼす中で、両国が連携して現ビジョンの成果と課題について協議を重ね、新ビジョンの合意に至ったことは、両国の絆の表れである。
- ・ 日本は、農林水産物・食品の輸出を2030年に5兆円にする目標を掲げており、ベトナムへ輸出額は2019年に450億円を超え、6番目の輸出先国となっている。新ビジョンでは、ベトナムのフードバリューチェーンの構築、両国間の投資機会拡大、貿易促進に、両国が連携して取り組むことを確認した。
- ・ 官民フォーラムでは、両国の企業プレゼンテーションが行われる。日本の先端技術がベトナム側ニーズと合致し、投資拡大と新たなビジネス創出につながり、両国間交流の一層の深化を祈念する。

2. 「第5回日越農業協力対話」概要説明（農林水産省 北田交渉官）

- ・ クオン大臣と野上大臣の出席のもと、「第5回日越農業協力対話ハイレベル会合」を開催した。本対話は、2014年3月の日越首脳会談で合意され、今回で5回目となる。
- ・ 本対話の成果として、ベトナム農業の生産性向上や流通改善などを目的に、2020年から5か年間の日越の行動計画を定めた「日越農業協力中長期ビジョン」（以下、次期中長期ビジョン）が承認された。
- ・ 2019年までの中長期ビジョンでは、主に生産性向上と流通改善を目的に、モデル3地域における、5年間の日越両国の行動計画を定めた取組である。5年間の取組をレビューし、さまざまな課題を明らかにし、両国は長い時間、議論を重ねて、次期中長期ビジョンの作成に至った。
- ・ 次期中長期ビジョンでは、従来の取組、特にモデル地域の取組の継続及び充実、民間連携の強化に加えて、投資促進を優先的な取組と位置付けた。企業が投資や輸出入を行うに当たって直面する問題に対し、両国政府が連携して課題解決に取り組むことも明記している。
- ・ 先の5年間の取組で、民間企業が特に直面したのは、地方で適地が見つからない、地権者交渉が難航している等の用地問題だと承知している。次期中長期ビジョンでは、窓口であるジャパンデスクの機能を強化し、日本からのアドバイザー派遣継続にあわせて、ベトナム側も地方省連携等、強化

体制で進めていくことを確認している。

- ・ 次期中長期ビジョンでは、ベトナムの農林水産業・食品産業のさらなる包括的な発展のほか、両国の農林水産業及び食品分野の貿易投資拡大を期待している。
- ・ 本ハイレベル会合では、2つの協力覚書の署名が行われた。かんがい排水分野では、両国の技術や経験について、交流や情報交換の推進を目指す。水産分野では、国連海洋法条約に規定された、教育の精神、海洋生物の資源の持続的な利用について、両国が築いてきた緊密な関係をさらに強化する。2つの協力覚書により両国の協力関係がさらに深まり、さまざまな取組に発展していくことを期待したい。

3. 民間企業のプレゼンテーション

3-1 日本企業

- ① 徳島港湾荷役株式会社代表の端村氏より、ベトナムのハナム省での徳島式農法による高付加価値野菜の生産及び流通・販売を含めたバリューチェーン構築実証事業の取り組みについて発表。
- ② 市岡製菓株式会社の市岡沙織氏及び市岡製菓ベトナムの市岡志麻氏より、徳島の農産物を原材料にした安心・安全な菓子の製造及び6次産業化への取り組みや、ベトナム工場で製造をしている商品紹介、ベトナム人の嗜好に合わせた商品開発・販売の取り組みについて発表。
- ③ 日産スチール工業株式会社の西本氏より、青果物鮮度保持技術「Freshmama」の紹介とその導入事例について発表。
- ④ 国土防災技術株式会社の清水谷氏より、植物成長活性剤、高濃度フルボ酸「フジミン」の紹介とその使用事例について説明。
- ⑤ 協和建設工業株式会社代表の田村氏より、環境事業における農業インフラ技術「シートパイプシステム」のベトナム農業への貢献について発表。

3-2 ベトナム企業

- ① ドン・ジャオ・フードスタッフ エクスポート カンパニー会長のリンカオフエイ氏より、日本市場への農産物（野菜・果実）の輸出の現状と今後の展望について発表。
- ② フンニョングループより、ベトナムにおける畜産分野の先駆けの企業として、養鶏場や養豚場において最先端の技術を導入している取組について発表。
- ③ シメクコ ダカックのレイテンス氏より、ベトナムからのコーヒー輸出第1位の会社であり、厳しい品質管理により国際市場の基準を満たしていることや日本のパートナー企業との取引実績について説明。

4. 閉会

ベトナム側あいさつ（農業農村開発省 トゥアン国際協力局長）

- ・ 先ほどの日本企業、ベトナム企業の発表を通じて、ベトナムと日本の農業が補完的な関係を持つことができると思います。日本企業には輸送プロセス、保存機材や、栽培促進や質などに強みがあり、ベトナム企業は、水産物、果実の栽培、熱帯果実などに強みがある。企業が互いの実績共有と意見交換を行うことで、協力の機会を得ることを期待している。
- ・ ベトナム企業から要望メッセージも受け取ったが、ベトナム国農業農村開発省と国際協力局が、日本国の農林水産省の国際協力部門と、及び在ベトナム日本大使館とも連携して、ベトナム企業に日本側の企業の連絡先を提供する。最後に社長のクエン様からミンフー社の紹介をいただく。

（ミンフーシーフード レ・ヴァン・クエン社長）

- ・ ミンフーシーフードは、ベトナム最大水産物の輸出企業で、エビ輸出事業では、世界最大企業である。毎年約1万2,000トン、金額にして約150万ドルのエビを日本に輸出している。主力輸出商品は付加価値製品で、主にすしやエビフライを日本に輸出している。日本のお客様、消費者の皆様の好評をいただいているが、さらに弊社商品の販売を強化したいと考えている。
- ・ ミンフーのエビ養殖事業及び加工事業の紹介ビデオをご覧いただきたい。

日本側あいさつ（農林水産省 小島参事官）

- ・ ベトナム農業農村開発省のトゥアン国際協力局長より言葉をいただき、感謝申し上げます。
- ・ 日本国の農林水産省として、JICA、ジェトロ、民間企業の皆様と一丸となって、ベトナム側と連携協力したいと考えている。発表いただいた企業を含め、日本とベトナムの参加企業の紹介シートを配布しているので、企業同士で連絡を取り合ってください。
- ・ 官民フォーラムの開催に尽力いただいた皆様、参加いただいた皆様に改めて感謝を申し上げます。今後の取組を通じて、皆様とお会いできることを目指していきたい。

ベトナム側あいさつ

- ・ 日本国農林水産省、JICA、ジェトロ、在ベトナム大使館及び民間企業と各協会の代表の皆様、地方の代表の皆様とメディアの皆さんには、越日農業協力対話ハイレベル会合と官民フォーラムの開催に尽力いただき感謝申し上げます。
- ・ 本フォーラムは、両国の民間企業に、今後の文化、貿易、人材の交流の機会だと考えている。コロナ禍の影響で直接会えなかったが、ぜひ今後は直接会って協力する機会があればありがたい。

以上

【記録写真】 撮影JTB

日本会場



ベトナム会場



(2) 日ミャンマー二国間政策対話

令和3年2月にミャンマーとの対話を実施予定であったが、2月1日にミャンマーにおいて国軍によるクーデターが発生したことにより、対話実施が困難であると判断した。

(3) 日本企業の海外展開状況調査（ベトナム）

【総論】

ベトナムにおける官民フォーラムに際して、参加企業から事業展開にあたっての課題等を聴取したところ、現地サプライヤーの開拓やベトナムからの青果物の輸出拡大、ベトナム企業の人材育成強化を求める意見が示された。

今後の事業展開予定についてはコロナ禍にありながら、販売拠点の拡大や事業会社の設立、開発事業（プロジェクト）の展開を推し進める等の計画が示された。

【参加企業からの主な意見】

1. ベトナムにおける事業展開上の課題・要望

- ベトナム産青果物の輸出拡大（フードロス削減）に対しての援助。
- 有望な農産物サプライヤーの開拓。
- 現地法人のパートナーと行政や大学をカウンタパートとする産官学連携の構築。
- ベトナム企業の国際化支援、人材育成強化。

2. 今後の事業展開予定

- 販売拠点（レストラン業態）のさらなる出店。
- 海外植物工場事業を進める事業会社の設立。
- 日本のコメ政策に悪影響を与えない、国際市場のシェアとプラットフォーム化による収獲増型ビジネスモデルの展開。

2、 ベトナムにおける農産物・食品の規格・認証制度の活用促進

(1) ASIAGAP と VietGAP の差分の研修

【実施日時・場所】

日時：令和2年12月15日（火）～17日（木）
場所：日本 GAP 協会 会議室（テレビ会議形式）
言語：日本語・越語（逐次通訳）

【概要】

講師は日本 GAP 協会が務め、ベトナム農業農村開発局とベトナム国立農業大学の職員をはじめ民間企業に勤めるベトナム人社員など10名が本研修を受講した。研修生は VietGAP について2年以上の指導や普及活動の経験がある。

研修では2019年度の振り返りから始まり、VietGAP と ASIAGAP の違いに関する講義、ベトナムの VietGAP 取得農場とオンラインでつなぎながら ASIAGAP の審査に必要な作業の演習を行った。

本研修を受講した研修生に対し、日本国農林水産省より研修参加証を授与した。

(1) 実施プログラム

【1日目：12月15日（火）】

Time (VNT)	Time (JPT)	Activities
08:20 - 08:30	10:20 - 10:30	(Attendance confirmation)
08:30 - 9:30	10:30 - 11:30	1 Orientation 1-1. Welcome Greeting - Mr. MATSUI Shunichi, President, Japan GAP Foundation 1-2. Opening remarks from the Japanese representative - Mr. SEGAWA Masahiro, Senior Policy Advisor of Sustainable Agriculture Division, Agricultural Production Bureau, MAFF Japan 1-3. Self introduction from the trainer - Mr. MORITA Hiroyuki, Chief Technical Officer, Japan GAP Foundation 1-4. Information about the training course - Mr. MORITA Hiroyuki, Chief Technical Officer, Japan GAP Foundation
9:30 - 9:40	11:30 - 11:40	(coffee break)
9:40 - 11:30	11:40 - 13:30	1-5. Self introduction from Vietnamese side - Trainees
11:30 - 13:00	13:30 - 15:00	(Lunch)
13:00 - 14:30	15:00 - 16:30	2- Lecture 2-1. Review of 2019 co-working 2-2. Set objective
14:30 - 14:40	16:30 - 16:40	(coffee break)
14:40 - 16:00	16:40 - 18:00	2-3. The differences of VietGAP and ASIAGAP

【2日目：12月16日（水）】

Time (VNT)	Time (JPT)	Activities
08:20 - 08:30	10:20 - 10:30	(Attendance confirmation)
08:30 - 11:30	10:30 - 13:30	3- Exercise 3-1. ASIAGAP Audit Process 3-2. Preparation for Exercise of audit for a VietGAP certified farm

11:30-13:00	13:30-15:00	(Lunch)
13:00-15:00	15:00-17:00	3-3. Exercise of audit for a VietGAP certified farm - Question and Answer session - -Question Trainer: Mr. MORITA Hiroyuki, Chief Technical Officer, Japan GAP Foundation -Answer Farmer: Mr. Nguyen Huu Hung, Agriculture service Cooperative Yen Phu commune
15:00-15:10	17:00-17:10	(coffee break)
15:10-16:00	17:10-18:00	3-4. Review of exercise of audit for a VietGAP certified farm

【3日目：12月17日（木）】

Time (VNT)	Time (JPT)	Activities
08:20 - 08:30	10:20 - 10:30	(Attendance confirmation)
08:30 - 11:30	10:30 - 13:30	4- Exercise 4-1. Post Audit Process
11:30-13:00	13:30-15:00	(Lunch)
13:00-15:30	15:00-17:30	5- Summary 5-1. Summary of the training course 5-2. Awarding of certificate of completion A representative of the trainees - Dr. Nguyen Thi Bich Thuy, Head, Department of Postharvest Technology, Faculty of Food Science and Technology, Vietnam National University of Agriculture
15:30-15:40	17:30-17:40	(coffee break)
15:40-16:00	17:40-18:00	6- Closing 6-1. Closing Remarks - Mr. MATSUI Shunichi, President, Japan GAP Foundation 6-2. Information about Questionnaire - Ms. YOSHIIZUMI Saori, Section Chief, Sustainable Agriculture Division, Agriculture Production Bureau, MAFF Japan

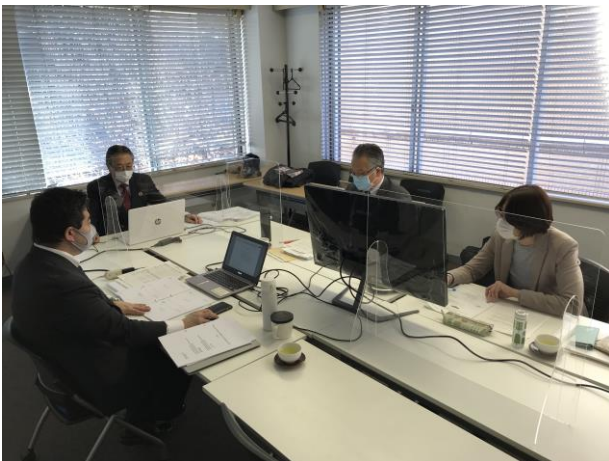
(2) 研修生のアンケート結果（概要）

- ・ VietGAP と ASIAGAP の違いについて、全ての研修生の理解が深まった（9 名が「理解が非常に深まった」、1 名が「理解が少し深まった」と回答）。
- ・ ベトナムで GFSI 承認を取得した GAP を普及するため、今後何が必要と考えるかについて「農家に指導できる指導者の育成（研修）」の優先度が一番高いという回答が多かった（6 名が最も優先度が高い、3 名が2 番目に優先度が高いと回答）。

(3) 研修の成果

- ・ 政府機関や民間企業の VietGAP の指導員、普及員が、国際的に通用する GAP 認証である ASIAGAP への理解を向上させることが出来た。
- ・ 研修生からは、今後とも ASIAGAP 研修の実施や審査員の育成に向けた活動を進めてほしいとの要望が示された。
- ・ 本研修は、GAP 認証のリモート審査を含めた内容で実施した。コロナ禍を踏まえると、リモート審査は円滑な認証審査の実施や審査費用の低減に効果があると考えられる。

【記録写真】撮影 JTB



(2) 有機 JAS 認証研修

【実施日時・場所】

日時：令和3年1月13日（水）～15日（金）

場所：ベトナム農業科学研究所（VAAS）（テレビ会議形式）

言語：日本語・越語（逐次通訳）

【概要】

農林水産省とベトナム農業省との間で締結された「ベトナムの農産物・食品の品質に関する基準・認証の活用に関する覚書」に基づき、有機 JAS 認証研修を3日間にわたって開催した。

講師は日本オーガニック検査員協会の丸山豊氏、特定非営利活動法人 Seed to Table の伊能まゆ氏が務めた。研修内容は ISO17065 認証など 2019 年の振り返りから始まり、日越双方の農場や関連施設の写真を用いた演習等を通じて有機 JAS 認証への理解を深めるとともに、有機審査員としての判定の訓練を行った。VAAS やホーチミン市立農業ハイテク機構（AHTP）が参加者の募集を行い、約 90 名が参加（延べ人数）。

(1) 実施プログラム

【1日目：1月13日（水）】

Vietnam time	Japan time	Time	Theme
9:30 ~ 9:40	11:30 ~ 11:40	10 mins	Opening remarks
9:40 ~ 11:30	11:40 ~ 13:30	2 hours (incl. 10 mins break)	Review of the last year's leaning contents
11:30 ~ 12:45	13:30 ~ 14:45		Lunch
12:45 ~ 14:15	14:45 ~ 16:15	1 hours 30 min	Review of the last year's leaning contents
14:15 ~ 14:30	16:15 ~ 16:30		Break
14:30 ~ 16:00	16:30 ~ 18:00	1 hours 30 min	ISO 17065 - Requirements for bodies certifying products, processes and services
16:00 ~ 16:30	18:00 ~ 18:30	30 min	Day1 summary, Q&A, advanced preparation for the Day3 subjects

【2日目：1月14日（木）】

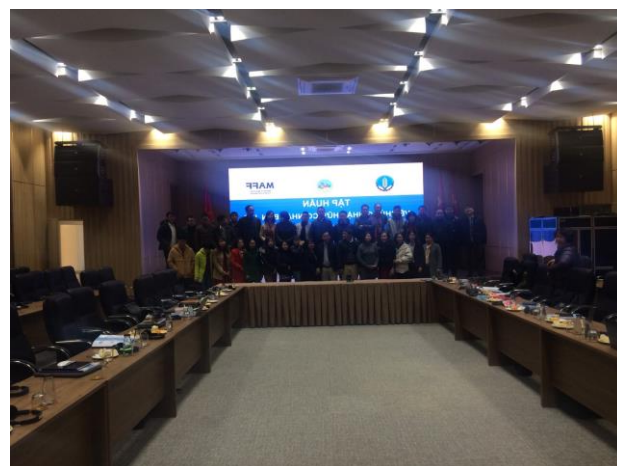
Vietnam time	Japan time	Time	Theme
9:30 ~ 11:30	11:30 ~ 13:30	2 hours (incl. 10 mins break)	Organic faming in Vietnam
11:30 ~ 12:45	13:30 ~ 14:45		Lunch
12:45 ~ 15:45	14:45 ~ 17:45	3 hours 30 min (incl. 10 mins break)	(Inspection Training) Confirmation on farms and post harvest facilities
15:45 ~ 16:00	17:45 ~ 18:00		Break

16:00 ~ 16:30	18:00 ~ 18:30	30 min	Day2 summary, Q&A, advanced preparation for the Day3 subjects
---------------	---------------	--------	---

【3日目：1月15日（金）】

Vietnam time	Japan time	Time	Theme
9:30 ~ 11:30	11:30 ~ 13:30	2 hours (incl. 10 mins break)	(Inspection Training) Confirmation on Production control records
11:30 ~ 12:45	13:30 ~ 14:45		Lunch
12:45 ~ 14:45	14:45 ~ 16:45	2 hours (incl. 10 mins break)	(Roll-playing Exercise) Roll-playing exercise where participants make a decision in a Judging committee based on an inspection report, and discussing using the result of the committee
14:45 ~ 15:00	16:45 ~ 17:00		Break
15:00 ~ 16:30	17:00 ~ 18:30	1 hour 30 min	(Group discussion) Subject: Consider problems and points to concern when participants suppose to try to acquire the Organic JAS certification for any organic farms.

【記録写真】撮影 JTB



(3) 日越合同 GAP セミナー

◆日越合同 GAP セミナー

日時：令和3年1月18日（月）11:00～14:00（日本時間）

場所：農林水産省 会議室（テレビ会議形式）

言語：日本語・越語（逐次通訳）

1. 概要

日本側から、ベトナム国内の小売業者等やGAP取得済みの先進農家を対象に、我が国におけるGAP認証の推進状況および日本発のGAP認証であるASIAGAPについて説明。

また、日本側よりASIAGAPの優良取組事例を紹介。ベトナム側より、GAP認証の実態やGAP推進上の課題等について説明。質疑応答を実施。約130名が参加。

2. 参集範囲

- (1) ベトナム国内の小売・流通業者、食品企業、輸出業者 等
- (2) ベトナム国内でGAP取得済みの先進農家
- (3) ベトナムでの事業展開を実施中の（または実施の意向のある）日系企業
- (4) ベトナム国内のGAP審査機関及び指導員

3. 議事次第

- (1) 開会（11:00～11:05）
- (2) セッション1：日本側講演（11:05～12:35）
 - 日本におけるGAPの推進状況（農林水産省）
 - ASIAGAPについて（日本GAP協会）
 - ASIAGAPの優良取組事例の紹介（日本航空株式会社）
 - ASIAGAPの優良取組事例の紹介（斉藤農場）
 - 質疑応答
 - （休憩）（12:35-12:45）
- (3) セッション2：ベトナム側講演（12:45～13:25）
 - GAP推進上の課題と今後の方向性[仮題]（農業農村開発省）
 - GAP認証の実態について[仮題]（農業農村開発省）
 - 質疑応答
- (4) 全体質疑応答（13:25～13:55）
- (5) 閉会（13:55～14:00）

【記録写真】撮影 JTB



(4) 日越合同食品安全マネジメント (FSM) セミナー

日時：令和3年1月19日（火）15:30～18:30（日本時間）

場所：農林水産省 会議室（テレビ会議形式）

言語：日本語・越語（逐次通訳）

1. 概要

ベトナム国内の食品製造事業者、販売業者、監査会社を対象に、JFS規格のシステムやメリットを紹介。プログラムオーナーの食品安全マネジメント協会に講師を務めて頂き、JFS規格の取組状況についてベトナムの関係者宛に説明を行った。約150名が参加。

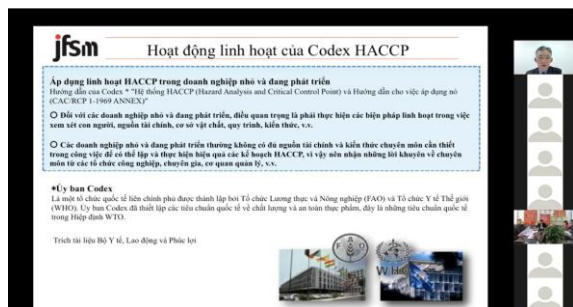
2. 参集範囲

- (1) ベトナム国内の小売・流通業者、食品企業、輸出業者 等
- (2) ベトナムでの事業展開を実施中の（または実施の意向のある）日系企業
- (3) ベトナム国内の食品安全関係の監査機関及び認証機関

3. 議事次第

- (1) 開会（15:30～15:40）
- (2) JFS セミナー（食品安全マネジメント協会）（15:40～17:40）
 - JFSM について
 - JFS 規格について
 - JFS 規格取得のメリットについて
- (3) 質疑応答（17:40～18:20）
- (4) 閉会（18:20～18:30）

【記録写真】 撮影 JTB



(5) 日越合同有機 JAS 認証セミナー

日時：令和3年1月20日（水）10:30～17:30（日本時間）

場所：農林水産省 会議室（テレビ会議形式）

言語：日本語・越語（逐次通訳）

1. 概要

ベトナムにおける有機農業や有機認証に関心を持つ農業従事者や小売業者等を対象に、有機 JAS 認証やその活用事例、ベトナムの有機農産物規格等を紹介し、有機認証について理解を深めていただくとともに、ベトナムにおいて有機認証の活用を促進することを目的として開催。約 130 名が参加。

2. 参集範囲

ベトナムにおける有機農業及び有機認証に関心のある農業従事者、小売・流通業者、食品製造業者等

3. 議事次第

(1) 開会 (10:30～10:40)

(2) ベトナム側講演 (10:40～11:40)

ベトナムにおける 2020 年から 2030 年までの有機農業開発計画及び 2020 年 12 月に策定した行動計画等の紹介（農業農村開発省）

(休憩) (11:40～11:50)

(3) 日本側講演 (11:50～17:10)

有機食品マーケットと JAS 認証（農林水産省）

有機 JAS 認証制度（農林水産消費安全技術センター）

(休憩) (13:30～15:00)

有機農業を支える取組（株式会社 UTS CEO 内山 健太郎）

(休憩) (16:00～16:10)

有機農業を支える取組（たいよう農園有限会社 CEO 大塚 桂一）

(4) 全体質疑応答・閉会 (17:10～17:30)

【記録写真】撮影 JTB



(6) 分科会

◆GAP 分科会

日時：令和2年8月19日（水）15:00～17:00

場所：農林水産省 会議室 / ベトナム農業省 会議室（テレビ会議形式）

言語：日本語・越語（逐次通訳）

【概要】

日本側より、2019年度のワーキンググループ後に実施した本邦研修の結果を発表し、ベトナム側より、ASIAGAPに関する生産者と輸出業者のニーズ等について発表した。その後、2020年度の活動計画案について意見交換を行い、今後とも両国の分科会メンバーで緊密に連絡をとりながら、詳細な計画や方法を調整していくことを確認した。

【記録写真】 撮影JTB



◆分科会（GAP・FSM・有機JAS認証）

日時：令和3年1月21日（木）

10:00～12:00 GAP 分科会

13:00～14:30 FSM 分科会

15:30～17:30 有機認証分科会（日本時間）

場所：農林水産省 会議室（テレビ会議形式）

言語：日本語・越語（逐次通訳）

各分科会において日本側より2020年度の取組の概要について説明した後、今後の活動方向について意見交換を実施。2021年度の活動方向等について合意した。

【記録写真】 撮影 JTB



(7) ワーキンググループ

日時：令和3年1月22日（金）15:00～18:00（日本時間）

場所：農林水産省 会議室（テレビ会議形式）

言語：日本語・越語（逐次通訳）

GAP、FSM、有機認証の3分科会より、分科会で議論した「協力の最終目標とそれに向けた今後の活動方向」について報告し、意見交換を行った。ワーキンググループとして各分科会でとりまとめた「協力の最終目標とそれに向けた今後の活動方向」を承認した。

【記録写真】撮影 JTB



(了)